

## (写)

### 都営地下鉄大江戸線延伸の早期事業着手に関する要望書

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

東京が将来にわたって持続的に発展し日本全体を牽引し続けるためには、活発な都市活動を支える鉄道網のさらなる充実が不可欠です。大江戸線の延伸（光が丘～大泉学園町）は、首都圏の広域交通ネットワークの強化・充実に資するとともに、練馬区の北西部に残された、23区でも数少ない鉄道空白地域を解消する重要なプロジェクトです。

延伸実現に向けて、昭和63年に延伸地域住民・区議会・区により大江戸線延伸促進期成同盟を設立し、長年に渡り促進活動に取り組んできました。平成29年には、区内の経済団体等とともに大江戸線延伸推進会議を設立しました。いまや大江戸線の延伸は、区全域の多くの住民が切望するもので、機運は大いに高まっています。

本路線は、都と区が事業化に関する協議を積み重ねてきた結果、都や国の計画において整備に向けて明確に位置付けられました。令和元年12月、都は、2040年代に目指す東京の姿「ビジョン」と、その実現のために取り組むべき戦略を示した『未来の東京』戦略ビジョンを公表し、その中で、調整が整った路線から順次事業に着手していくとした上で大江戸線の延伸について「関係者と事業化について協議・調整を進める」と位置付けました。

大江戸線の延伸実現に向けた取組は、大きく進んでいます。導入空間となる道路整備については、延伸区間全体の用地取得率がすでに8割を超えています。新駅予定地周辺や沿線のまちづくりの進展、都と区の実務的な協議の進展、区の延伸推進基金が目標額である50億円に達したことなど、国の答申で進めるべきとされた路線のなかでも取組の熟度は極めて高いと考えています。

新型コロナウイルス感染症対策が喫緊の課題ですが、都市インフラの整備は、長い年月を要するものであり、今から計画的に取り組むを進めていくことが重

要です。延伸に向けた取組の進捗については、昨年10月の小池都知事と区長の意見交換の場においても都知事に直接お伝えし、改めて早期事業化を要望したところです。

延伸の効果や必要性、地域の思い、取組の熟度等を踏まえ、1日も早い事業着手の判断をお願い申し上げ、以下の取組を早急に行うよう要望します。

## 記

- 1 課題となっている駅やトンネルの構造、延伸に必要な車両の留置施設などの施設計画を早急に取りまとめること。
- 2 延伸に必要な施設計画、将来需要を踏まえた収支採算の見通しを早急に立てるとともに、その際は、全線に係る様々な対策費との関連を整理したうえで精査すること。
- 3 前記1、2を踏まえ、延伸に係る事業計画を早急に取りまとめ、環境影響評価など事業化に向けた調査・手続に着手すること。
- 4 延伸に向けて必要となる協議・調整や沿線のまちづくりをより円滑かつ効率的に進めるため、都が進める鉄道施設の検討状況などを練馬区へ適宜、情報提供すること。
- 5 都市計画道路補助230号線の用地取得を進め、大江戸線延伸に必要な導入空間を早期に確保すること。  
また、整備スケジュールについて、地域住民に丁寧な情報提供を行うとともに、用地を取得できた区間からの先行整備と交通開放を検討すること。

令和3年1月22日

東京都知事 小池百合子様

## 大江戸線延伸推進会議

大江戸線延伸促進期成同盟 会長（練馬区長） 前川 燿男

一般社団法人 練馬産業連合会 会長 井口 薫

東京商工会議所練馬支部 会長 高内 恒行

練馬区商店街連合会 会長 篠 利雄

公益社団法人 練馬東法人会 会長 秋山 勉

公益社団法人 練馬西法人会 会長 高橋 利充

東京あおば農業協同組合 代表理事組合長 洒井 利博

練馬区町会連合会 会長 加藤 政春

光が丘地区連合協議会 会長 高橋 司郎